

【借金大国「日本」～増え続ける国債の行方～】

〈当該研究の状況〉

▼先行研究

河村小百合（2020）

「巨額の赤字国債は問題ないのか」

▼先行研究の要約

新型コロナウイルス対策に伴う歳出の積み増しは全て国債の増発で賄われた。2020年度の国債の発行額は90兆円あまりにのぼり、その大部分は赤字国債である。それにもかかわらず、国内での今後の財政運営に対する危機感の高まりはない。政府の国債発行残高の肥大化はすなわち、国民の当座預金残高でもある。我が国としては財政の再建と金融政策の運営の正常化が急がれる。財政運営の面では、急速な少子高齢化による人口現象が進む中、今後の社会補償費をいかに金融市場に巨額の資金が余っている現状は公開市場操作による金利誘導の機動性を損ねてしまう。またこの先金融緩和を継続し、超低金利が続けば逆ザヤによる損失を被り日銀が債務超過に転落する可能性もある。に賄うかの議論が重要であり、その財源は消費税だけでは不十分である。新しく発行する国債を抑制し、既存の国債発行残高を減らし、安易に発行しないためのルール作りが不可欠である。

〈先行研究の課題〉

▼結論

これらを回避するために、当座預金の中から、国債を償還するための寄付を募ればよいのではないか。筆者の仮説にとどまるものの、YouTube, テレビCMで呼びかけることができるのではないか。

▼背景

国債の肥大化と同時に、銀行の預金残高も肥大化している。そのことによるリスクとして、1つには、公開市場操作による機動性を損ねてしまう。2つには、逆ザヤによる日本銀行の債務超過のリスクがあげられる。

〈RQ:リサーチクエスション〉

現在の日本の国債発行・償還制度では、国債発行残高が増え続ける一方なのでは？

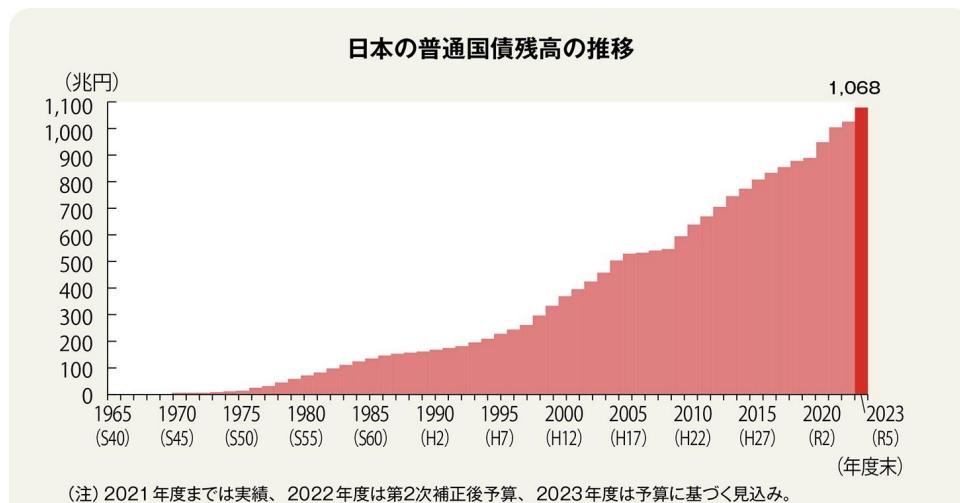
〈RQに対する仮説〉

▼結論

増加し続ける。

▼背景

国債残高は増える一方で、償還が発行を上回っている年が今までで一度もない。



〈研究目的〉

現在の日本の国債発行・償還制度に対する様々な立場の見解を比較し、既存の制度の問題点を指摘することで、改善の一助とする。

〈研究内容／研究方法〉

【第1章：国債発行・償還の現状】

財務省（2023）より示された「財政に関する資料」をもとに、日本の国債発行・償還の現状を整理する。

【第2章：データ分析（有識者、銀行、市民団体、民間企業など）】

論文資料、銀行・証券会社、その他各種団体の描写する国債や国費の支出を示す。さらに、当座預金の肥大化と、預貯金を寄付として手放すことに対する国民の意向を精査する。

【第3章：比較・考察】

前章までで得られたデータをもとに、共通項や相違点を整理し、考察を加える。ただし、筆者の集め得た範囲のデータに基づいた考察であることを考慮されたい。

〈参考文献〉

河村小百合（2020）「巨額の赤字国債は問題ないのか」『都市問題』、後藤・安田記念東京都市研究所（2023年8月20日取得）
財務省（2023）「財政に関する資料」（2023年8月19日取得）
<https://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/condition/a02.htm>
中島将隆（2013）「なぜ赤字国債の無制限発行が可能になったか」『証券経済研究』第81号、（2023年8月20日取得）